

日本医科大学(後期) 英語

2025年 2月 28日実施

[I]

問 1 [1] ended [2] identifying [3] occurs [4] provoked [5] kept

問 2 胃潰瘍はストレスと、そこから生じる胃酸過多を原因として引き起こされるという、当時の有力な見解。

問 3 記号：(い)

理由：Marshall の 8 回目の会話で、通常ならば研究室で 2 日間で培養しても発見できない菌は存在しないものと見なす考え方があったと述べられており、それに照らせば成長の遅いヘリコバクター・ピロリは発見できなかったはずであるから。

問 4 (あ)→if [whether], (い)→criticism

問 5 記号：(あ)

理由：Marshall の 15 回目の会話で、事前にヘリコバクター・ピロリを培養してどの抗生物質が効くのか調べ、それを実際に患者に投与して菌を死滅させられることを確認したうえで自分自身を実験台にしたことが述べられているから。

問 6 (1) The usual tests did not reveal any abnormality, and the patient was then sent to a psychiatrist, who prescribed an antidepressant, so it is inferred that she was diagnosed with some kind of mental disorder, which later turned out to be false.

(2) The patient initially complained of severe abdominal pain, but after taking tetracycline, he returned to the consulting room looking far better, which implies that the antibiotic tetracycline eliminated the Helicobacter pylori bacteria in the man's stomach, thus improving his symptoms.

問 7 a 問 8 b 問 9 b, c, d 問 10 b

問 11 a→e→c→d 問 12 d

[解説]

問 1 [1] : end up in ~ 「(特定の場所や状況) ~に身を置く」より、過去形 ended とする。

[2] : identify 「~を特定する」より、活用形は started の目的語として動名詞 identifying を置く。

[3] : 「~した時に起こる」痛みとなるのが適切であり、先行詞 pain が 3 人称単数なので、occurs とする。

[4] : provoke 「(怒りなど) ~を引き起こす」より、過去形 provoked とする。

[5] : keep *doing* 「~し続ける」より、ここでは「患者が何度も戻ってくる」となるのが適切であり、過去形 kept とする。

問 2 直前の段落に、the connection between ulcers, stress, and acid とあり、またインタビューの質問にも、ulcers routinely classified into being caused by mental or emotional problems と述べられているように、ストレス (メンタルの問題) と胃酸 (過多)、潰瘍との間に因果関係があるとする考え方を指していると判断できる。

- 問 3 Marshall の 8 回目の会話で、**Anything that didn't grow in two days didn't exist** 「2 日後に成長していないものは存在しない」と見なすのが培養実験での通常の考え方だが、ピロリ菌は、成長するのに **longer** 「より長く」かかったと述べられており、(い)「実験室のスタッフは、通常の手順を踏んで、ヘリコバクター・ピロリを特定した」は誤りであると判断できる。
- 問 4 ア **see if (whether)** ～ 「～であるかどうかを確かめる」であり、**see that** は不適。
イ **open to** ～ であるから、動詞 **criticize** は不適であり、名詞 **criticism** とする。
- 問 5 Marshall の 15 回目の発言を参照すると、彼は一度実際に患者に投与することで抗生物質の効果を確認しているので、(あ)「自分が回復できるか分からないまま、自らを実験台にすることにした」は誤りであると判断できる。
- 問 6 (1) **the woman** の症例については、Marshall の 7 回目の会話の第 5～9 文に記述がある。「女性が先に受けた治療に基づくと、彼女の初めの診断について何が推察されるか」という問いなので、女性が通常の検査を受けても何ら異常が発見されず、その後精神科医のもとへ送られて抗不安薬を処方されたという事実から、何らかの精神的な疾患であると診断されたことが窺える(ただし、実際にはもちろんヘリコバクター・ピロリによる疾患であるのでそれは誤診であった)と推論すればよい。
(2) **the Russian man** の症例については、Marshall の 7 回目の会話の第 10～17 文に記述がある。「そのロシア人男性に起こったことに基づくと、テトラサイクリンの役割について何が推察されるか」という問いなので、当初腹部の激しい痛みを抱えて診察に来た男性が、テトラサイクリンの服用後見違えたように元気になって再訪したという事実、また彼が実際にはヘリコバクター・ピロリを保有していたという事実から、テトラサイクリンがその細菌を死滅させたことで症状改善につながったとする推論を行えばよい。
- 問 7 設問条件をしっかりと見ることがカギ。**Interview** を“受けている”人である。可能性として **c** を選んだ人もいるかもしれないが、そもそも、**Q&A** 問題という事は、自分の名前を **Answer** で述べるはずもなく、**Warren** は本文中でフルネームで述べられていることから誤りとわかりたい。
- 問 8 **a** は、Marshall の 2 回目の会話から **consistent** が不適。**c** は該当なし。**d** は、2 回目の会話より、“... they'd all be completely normal” とあることから不適。また、そもそも下線部が **unexplainable** であり、不適とわかりたい。
- 問 9 **a** は、Marshall の 13 回目の会話より、治療してもどのみち再発することになるため、不適。
b は、12 回目の会話 8 文目から適切。
c は、13 回目の会話 13 文目から適切。
d は、12 回目の会話 7 文目から適切。
- 問 10 空所の前には、100 人の患者を **Denel** という薬で治療したところ、30 人が決して潰瘍を再発することがなく、一方で、**Tagamet** という薬での治療を止めたところ、100%が次の

12ヶ月以内に潰瘍を再発したとある。したがって、b.「Denelが根底にある問題を治療するのに何らかの役割を果たしているにちがいない」が正解。

問 11 Marshallの10回目の会話に、a.「オーストラリアの医師会でプレゼンテーションを行う」という内容がある。11回目の会話に、e.「ある科学雑誌に最近潰瘍の原因かもしれないことを書く」という内容がある。13回目の会話に、c.「ベルギーで開催される国際会議で微生物学者に研究結果を発表する」という内容がある。なお、本文にはブリュッセルとあるので、ベルギーと判断することができる。15回目の会話で、自ら行った有名で危険な人体実験についてのやり取りがあり、続く16回目の会話に、d.「彼の実験結果の論文を医学雑誌に出版する」という内容がある。したがって、a→e→c→dが正解となる。

問 12 空所の直後の文に、「そこにはすべて炎症があり、胃炎が発症していた」とあることから、10日後に、内視鏡検査を受けたところ、d.「細菌があらゆるところに存在していることがわかった」が正解。

[II]

(解答例 1)

Barry Marshall and Robin Warren's theory that gastric ulcers are caused not by stress or stomach acidity but by *H. pylori* infection was initially met with skepticism by many scientists. According to the text, they repeatedly appealed to academic societies and journals with objective evidence, but met with strong resistance each time. The campaign of negativism by gastroenterologists was particularly fierce, based on the fact that they could temporarily cure gastric ulcers by simply prescribing an antacid drug, but that since it was a recurrent disease, patients turned to them again and again. Thus, it can be argued that the value of Marshall and Warren's discovery was greatly undermined by the fact that it could have destroyed the vested interests of gastroenterologists and the entire industry that produced the drugs.

(130 words)

(解答例 2)

Rather than being hailed by the medical community, the discovery made by Marshall and Warren was viewed with skepticism. There are two possible reasons for this. One was the widespread assumption that it was scientifically impossible for germs to cause ulcers. As Marshall himself admitted, their discovery might have been like denying the geocentric theory. For another thing, there was an established treatment for gastric ulcers, and pharmaceutical companies were profiting enormously from it. Whenever there is a discovery that threatens a major vested interest, not only in medicine but also in other fields, there are forces that oppose it. I think his story suggests to us the problem of assumptions and vested

interests in science.

(116 words)

【解説】

大問 I の本文で「他の医療関係者の反応は、彼らが予想していたものではなかった」と述べられていることを踏まえ、彼らの発見が他の医療関係者によってどのように受け止められたのか、またそのような受け止め方をされたのはなぜだと思えるかについて論ぜよというもの。形式上は自由英作文であるが、実際には本文の記述から推論されることを的確に自分の言葉で表現できるかという性格の強い問題である。前半の問いについては、Barry Marshall と Robin Warren の学説が各所から懐疑的に見られたことを述べられていればよい。後半については、Marshall の 10 回目の会話で「病原菌が潰瘍を引き起こすという考えは、地球は平らだと言うようなものであった」とあること、13 回目の会話で「薬だけでなく、内視鏡の分野全体、30 億ドル規模の産業を根底から覆しかねない発見」とあることなどを踏まえ、当時では到底信じられないような考え方であったこと、既得権益への抵抗勢力が存在したことなどを指摘できるとよいだろう。

【Ⅲ】

- | | | | | | |
|-----|---------|-------|---------|-------|-------|
| 問 1 | a, d, e | 問 2 | b, c, d | 問 3 | a |
| 問 4 | (1) e | (2) b | 問 5 | (1) a | (2) c |
| 問 6 | (1) e | (2) c | 問 7 | (1) b | (2) e |
| 問 8 | (1) e | (2) c | | | |

【総評】

大問構成・出題形式ともに概ね前期と同一。文法正誤問題は今回も大問 I の長文問題中の一部として出題された。いずれも初歩的なミスなので、2 問とも確実に回収したいところ。記述式問題でも前期に続き、日本語論述のみならず、本文の記述から推論されることを英語で論述するタイプの問いが 2 問出題された。また、大問 II の自由英作文でも、自らの自由な意見というよりは本文から読み取れた要旨を的確に自分の言葉で表現できるかという性格の強い出題で、本文の正しい読解を前提とする英作文の出題というここ数年の性格を踏襲するものであった。毎年出題される Choose ALL 型の問題は 1 問で、前期で 4 問も出題されたことを考えると後期では控えめであった。一次通過ラインは、他科目との兼ね合いもあるが 60%程度か。

なお、Barry Marshall と Robin Warren による、ピロリ菌が胃潰瘍を引き起こすとする学説の提唱や、それが当時の人々から受けた非難、最終的に彼らが行った究極的な人体実験の流れについては、今年 1 月 24 日に行った慶應直前対策で全く同じトピックの文章を扱った。願わくはこれは日医の直前対策であったなら…と悔やむに悔やみきれないが、受講者にとっては話のオチが分かった状態で読んでいるに等しく、大量得点のチャンスであっただろう。

本解答速報の内容に関するお問合せは


医学部専門予備校
YMS
 heart of medicine
 ☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>
 東京都渋谷区代々木 1-37-14

医学部進学予備校 **メビオ** ☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>
 医学部専門予備校
英進館メビオ 福岡校 ☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

